

## 助言者講評

氷取沢高等学校 校長 本郷 宏一

横浜栄高等学校及び横浜立野高等学校のPTAの皆さん、楽しく、素晴らしい発表ありがとうございました。また、本日の横浜南地区協議会大会に向けてここまで準備いただいた釜利谷高等学校のPTAの皆様にも感謝申し上げます。私はこの4月に氷取沢高等学校に着任しました本郷宏一と申します。助言講評の機会をいただき、ありがとうございます。

まず、本日の発表にあたり、発表テーマについて検討される中で、横浜南地区協議会大会として統一したテーマを定め、どのようなメッセージを発信することができるか、皆さんで共有されることからスタートしたということ伺いました。皆さんで共有することにより、この協議会がより有意義な会とすることができると思いました。

その中で「ともに生きていく」というテーマを掲げ、話しあい、考えていくことが決められました。これは、神奈川憲章として、「ともに生きる社会」を実現させようと県民全体で取り組んでもうという流れの中で、地域全体で取り組み、より良い社会を築き上げる第一歩となると思います。

発表した両校の活動で、共通する特徴は世代間交流だと感じました。

最初に発表された横浜栄高校は、再編統合されて来月創立10周年の行事を迎え、さらに発展をしていく段階です。各委員会の活動の中で、注目された取り組みは、多くの保護者が協力して行っている「三世代地域交流会」です。本校でも近くに地域ケアプラザがあり、ボランティア活動として参加していますが、地域の多くの方が、学校に来校する交流を行っている点が素晴らしいです。

普段行わない遊びを知るというだけでなく、核家族化が進んでいる日常の生活の中で、生徒にとって世代を越えた交流の機会が少なくなってきました。日常の交流がないとお互いの考えているこ

とが、理解できないので、いざというときにコミュニケーションがとれないということが生じるのではないのでしょうか。スポーツや遊びを通じた交流によって、お互いの理解が進められる一つのきっかけになります。

次に横浜立野高校は、創立80周年を超える伝統校です。「保護者と生徒会生徒とのミーティング」が印象的な取り組みでした。中学生までは、地域内のつながりがあり、学校だけでなく、地域の行事などで子どもたちとも触れ合う機会がまだ多かったです。しかし、高校生になると、子どもの活動範囲も広くなり、私たち保護者も、職場での責任を果たすためにそれぞれの仕事に費やす時間が多くなり、家庭での会話をする時間が充分にとれていないため子どもの心理状態がわからないと感じる時があります。その中で、まとまった時間をとって話ができただけは大変有意義な企画ですし、さらに継続して実施できることを期待します。さらに卒業した社会人からの講演会は、職業として働くというイメージがまだ漠然としている生徒にとって、高校での学びが現在の職業にどのようにつながっていったのか、卒業生だからこそ伝えられる内容があるので、実現できるとよい企画です。

PTAの活動が、保護者と教職員とのつながりからさらに生徒や地域とも協働できる架け橋としたいという考えは、全ての学校のPTAで、一致していると思います。本校でも体育祭時の保護者による飲み物配付、文化祭前の清掃活動や花植えそして文化祭時の出店など生徒との交流の機会があります。本日の両校の発表を聴き、さらにPTA活動を「無理なく、楽しく、参加してよかったな」という気持ちで、活動できるヒントを得ることができました。

本日は素晴らしい発表、ありがとうございました。